

記入例

実務家教員用

研究，教育及び社会的活動等に係る業績一覧，今後の計画及び抱負

1. 研究業績

① 学術論文 A (国際的学会誌・学術誌所載論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2007年 3月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	7人	b(15%)	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・学会
2009年 10月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	11人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・学会
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 30%;"> <p>発表年月日の早い (古い)ものから 順に西暦(〇〇〇 〇年〇月)で記載。 (以下、全ての項 目・業績について も同様)</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 30%;"> <p>レフリー(査読者) のある機関誌等に 掲載された論文 は、論文名の前に ※を付すこと。 (以下①B～E同 様)</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を 記入する。記号aは本人がファーストオーサー 又は執筆責任者、bはその他であることを意味 する。bと記入した場合には記号の後に貢献度 を%で示すこと。</p> </div> </div>					
学術論文 B (日本学会協議協力学術研究団体が発行する学術誌所載論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2010年 3月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	2人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・
学術論文 C (Bに準ずる学術誌所載論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2002年 3月	・・・・・・・・	5人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・

学術論文 D (大学 (学部)・大学附置施設・センター等紀要論文, 地方的学会誌, 大学以外紀要所載論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2005年 3月	6人	b(20%) (第〇巻・〇号・ 〇〇~〇〇)大学
2010年 3月	2人	b(20%) (第〇巻・〇号・ 〇〇~〇〇)大学

学術論文 E (講座等発行機関誌, 個人的研究誌, その他 (市販) 啓蒙誌所載論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		

業績がない場合は, 空欄 (1行) とする。

② 実践に基礎をおいた論文 A (教育委員会, 公的研究会等表彰論文)					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		

--	--	--	--	--	--

⑦ 実技・作品発表 A (国際的規模 a. 最高賞受賞・優勝)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		
2004年 8月	5人	a	〇〇賞・第〇回〇〇大会	〇〇連盟
賞名, 会友, 資格, 大会名等を記載する。					
実技・作品発表 A (国際的規模 b. 上記以外のもの)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		
実技・作品発表 B (全国的規模 a. 最高賞受賞・優勝)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		
2005年 7月			優勝・第〇回〇〇フェスティバル	〇〇連盟
実技・作品発表 B (全国的規模 b. 上記以外のもの)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		
実技・作品発表 C (地方的規模 a. 最高賞受賞・優勝)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		
実技・作品発表 C (地方的規模 b. 上記以外のもの)					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は機関名
		総人数	役割		

⑧ 口頭発表・報告 A (国際的規模の学会・研究会 (招待講演))					
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数		発表・学会・研究会名	発表場所
2002年 8月	〇〇 〇〇 〇人		〇〇学会 第〇回総会	〇〇大学
2003年 2月	〇〇 〇〇 〇人		〇〇学会 第〇回大会	〇〇国際会議場
学会名, 研究会名, 大会等を記載する。					

口頭発表・報告 B (国際的規模の学会・研究会)				
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数	発表・学会・研究会名	発表場所
口頭発表・報告 C (全国的規模の学会・研究会 (招待講演))				
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数	発表・学会・研究会名	発表場所
口頭発表・報告 D (全国的規模の学会・研究会)				
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数	発表・学会・研究会名	発表場所
口頭発表・報告 E (地方的規模の学会・研究会)				
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数	発表・学会・研究会名	発表場所

⑨ 学位 (博士)		
年 月	論文名	授与機関
2007年3月	〇〇大学
学位 (修士)		
年 月	論文名	授与機関
2004年3月	〇〇大学

⑩ 科学研究費等 A (文部科学省科学研究費等における研究代表者)			
年 月	題 目	共同の場合は 代表者名と総人数	発表誌 (書) 発表機関名等
2005年 4月	〇〇 〇〇 2人	文部科学省科学研究 費補助金若手B (2005年度~2006年 度) 課題番号 〇〇〇〇〇〇〇〇
2011年 4月		文部科学省科学研究 費補助金基盤C (2011年度~2015年 度) 課題番号〇〇〇〇 〇〇〇〇

愛教 太郎

科学研究費等 B (その他研究に関すること)			
年 月	題 目	共同の場合は 代表者名と総人数	発 表 誌 (書) 発 表 機 関 名 等
科学研究費等 C (文部科学省, 県, 市による研究協力校における主たる研究者)			
年 月	題 目	共同の場合は 代表者名と総人数	発 表 誌 (書) 発 表 機 関 名 等

㊴ 学会賞 A (国際的規模の学会)	
年 月	受 賞 名
学会賞 B (全国的規模の学会)	
年 月	受 賞 名
2020年 5年	〇〇学会〇〇〇〇論文賞
学会賞 C (地方的規模の学会)	
年 月	受 賞 名

(欄外) 発行予定の論文等あれば記載する。

2. 教育業績

高等教育機関・研修センター等における教育歴

① 大学等高等教育機関における教育経験		
年 度	授 業 題 目	講 義 回 数
2018年度	「.....」(〇〇大学)	30回
	「.....」(〇〇大学)	15回
2019年度	「.....」(〇〇大学)	30回

専任，非常勤を問わず年度ごとに記載する。

② 研修センター又はこれに準ずる機関・施設での研修，講座等における教育経験		
年 度	研 修，講 座 等 の 名 称	研 修 回 数
2016年度	〇〇〇〇研修会講師	2回

③ 教科指導員等		
年 度	教 科 指 導 員 等 の 名 称	年 数

3. 社会的活動等

① 国・県・市等における審議会・委員会の委員などの活動	
2018年4月～2019年3月	〇〇〇〇委員会

② 作品展，コンテストなどの審査委員としての活動	

③ 学会，学術団体での活動	
2020年4月～現在	〇〇〇〇学会 理事

④ その他の社会的活動	

4. 教育実践に対する表彰

① 個人表彰

A. 国際レベルの表彰	
年 度	表 彰 題 目
B. 全国レベルの表彰（文部科学省等）	
年 度	表 彰 題 目
2016年度	文部科学省 ○○○○賞
C. 都道府県レベルの表彰	
年 度	表 彰 題 目
D. 市町村レベルの表彰	
年 度	表 彰 題 目

② 団体表彰

A. 国際レベルの表彰		
年 度	表 彰 題 目	人数・役割（貢献度）
2020年度	○○○○○○○賞	5人 責任者（100%）
B. 全国レベルの表彰（文部科学省等）		
年 度	表 彰 題 目	人数・役割（貢献度）
C. 都道府県レベルの表彰		
年 度	表 彰 題 目	人数・役割（貢献度）
2019年度	○○○○○○○賞	8人 共同執筆者（20%）
D. 市町村レベルの表彰		
年 度	表 彰 題 目	人数・役割（貢献度）

5. 研究・教育・社会的活動等に関する今後の計画等（1000字程度）

6. 当該教科・科目の担当者として学校教員養成に関わる考えや抱負（1600字以内）

「研究・教育及び社会的活動等に係る業績一覧、 今後の計画及び抱負」の記載上の注意

* 作成にあたっては、用紙はA4版普通紙を使用し、必ずこの様式に従って各自で作成すること。

記入用紙の各欄は、スペースを変更したり該当しないところを削除する等、各自でレイアウトできるが、記載順序は入れ替えないこと。

* 印刷する際には片面印刷をし、紙をまとめる際には、ホッチキス留めをせず、クリップ等を使用すること。

各項目の記載上の注意事項

* 以下の各項目における業績は、発表年月の早い（古い）ものから順に西暦（〇〇〇〇年〇月）で記載すること。

1. 研究業績

●対象の業績：公募締切日までに出版・公表されている業績

* 国内の研究発表会や国際会議などの予稿集、要旨集等に掲載されたものは研究業績には含めないこと。
また、同一の業績について2ヶ所以上記載しないように注意すること。

以下「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を記入する。記号aは本人がファーストオーサー又は執筆責任者、bはその他であることを意味する。bと記入した場合には記号の後に貢献度を%で示すこと。 記入例：b（30%）

項目	記載上の注意事項等
① 学術論文	
A. 国際的学会誌・学術誌所載論文	国際的学会・研究会の機関誌、学術誌及びこれに準ずるものに論文として掲載されたものを記載すること。 ○啓蒙誌が学会の機関誌を兼ねる場合には下記の「D欄」に記載すること。（例 雑誌「教育〇〇」、雑誌「〇〇指導」等）
B. 日本学術会議登録学術団体が発行する学術誌所載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
C. Bに準ずる学術誌所載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
D. 大学（学部）・大学附置施設・センター等紀要論文、地方的学会誌、大学以外紀要所載論文	大学の施設・センター単位の紀要（研究報告）に論文として掲載されたもの（例「愛知教育大学教育実践総合センター紀要」。）、地方的学会誌（全国的学会の下部組織としての地方的学会の機関誌を含む。）、大学以外紀要所載論文を記載すること。
E. 講座等発行機関誌、個人的研究誌、その他（市販）啓発誌所載論文	教室・講座単位の機関誌、個人的研究誌、市販の啓蒙雑誌等に論文として掲載されたものを記載すること。（例 「日本〇〇学会中部〇〇学会紀要」等）

【①A～E共通の記載上の注意事項等】

- レフリー（査読者）のある機関誌等に掲載された論文は、論文名の前に※を付すこと。
被引用論文や被引用著書、推薦文の書かれた著書等は、分野によっては論文名の終わりに*印を付すことができる。
- 単行書の形式で発行された論文集所収の個々の論文についても上記各欄のいずれかに位置づけて記載すること。
- 学会機関誌等にあっても正規の論文以外のものは、原則として「⑩科学研究費等 B. その他」に記載すること。

② 実践に基礎をおいた論文

A. 教育委員会、公的研究会等表彰論文	都道府県、市町村の教育委員会が発行する研究紀要等に「入選」、あるいは「入賞」したものととして掲載された論文を記載すること。
B. 教育委員会、公的研究会等公募論文	都道府県、市町村の教育委員会が発行する研究紀要等の公募に「応募」し、氏名などが掲載された論文を記載すること。
C. 教育委員会、公的研究会報告書等執筆・編集	都道府県、市町村の教育委員会によって編成されている研究会等が発行した研究報告等に掲載された論文を記載すること。 ○グループなどで関わり個人としての執筆箇所が特定できない場合は、研究会等の一員であったことがわかる名簿等を添付すること。 ○編集等に関わった場合は、そのことがわかる名簿等を添付すること。
D. 学校等編集による実践報告書等執筆・編集	学校が発行した実践報告書等に掲載された論文を記載すること。 ○グループなどで関わり個人としての執筆箇所が特定できない場合は、研究会等の一員であったことがわかる名簿等を添付すること。 ○編集等に関わった場合は、そのことがわかる名簿等を添付すること。
E. 児童福祉・少年非行等に関する公的機関が発行する報告書等掲載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
F. 児童福祉・少年非行等に関する研究会が発行する報告書等掲載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。

③ 学術書等

A. 学術書 (ISBN付)	学問研究上の価値があると考えられる単行書 (ISBN付) を記載すること。 ○共同執筆書の場合には、書名とともに本人の執筆の章、節名及び頁 (何頁から何頁まで) を「書名」欄に明記する。
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

B. 入門書・啓発書

入門書，啓蒙書を記載すること。

○記載要領は「③学術書等 A」に準ずる。

④ 翻訳書・翻訳論文

A. 学術書

左記項目に該当する業績について記載すること。

○記載要領は「③ 学術書等 A」に準ずる。

B. 啓蒙書

左記項目に該当する業績について記載すること。

○記載要領は「③ 学術書等 A」に準ずる。

C. 論文

左記項目に該当する論文について記載すること。

○記載要領は「① 学術論文」に準ずる。

⑤ 小中高の教育課程，教科書等

A. 小中高の教科書の執筆・編集

左記項目に該当する業績について記載すること。

B. 教育課程等に係る編成・執筆

C. 指導記録等の書式等作成

○グループなどで関わり個人としての執筆箇所が特定できない場合は、委員会等の一員であったことがわかる名簿等を添付すること。

D. 小中高の副読本の執筆・編集

○編集等に関わった場合は、そのことがわかる名簿等を添付すること。

E. 手引書等の執筆・編集

⑥ ①，②，③，④，⑤以外の執筆物

書評，辞書・事典の項目，新聞等のコラム等を記載すること。

⑦ 実技・作品発表

A. 国際的規模

a. 最高賞受賞・優勝

国際的規模の発表を記載すること。

b. 上記以外のもの

○受賞，会友，資格等も明記し，a. 最高賞受賞及び優勝した発表作品，b. それ以外は分けて記載すること。

B. 全国的規模

a. 最高賞受賞・優勝

全国的規模の発表を記載すること。

b. 上記以外のもの

○受賞，会友，資格等も明記し，a. 最高賞受賞及び優勝した発表作品，b. それ以外は分けて記載すること。

C. 地方的規模

a. 最高賞受賞・優勝

地方的規模の発表を記載すること。

b. 上記以外のもの

○受賞，会友，資格等も明記し，a. 最高賞受賞及び優勝した発表作品，b. それ以外は分けて記載すること。

⑧ 口頭発表・報告	
A. 国際的規模の学会・研究会（招待講演）	国際的規模の学会（招待講演）で、本人が口頭発表者あるいは責任発表者となったものを記載すること。
B. 国際的規模の学会・研究会	国際的規模の学会で、本人が口頭発表者あるいは責任発表者となったものを記載すること。
C. 全国的規模の学会・研究会（招待講演）	全国的規模の学会・研究会（招待講演）で、本人が口頭発表者あるいは責任発表者となったものを記載すること。
D. 全国的規模の学会・研究会	全国的規模の学会・研究会で、本人が口頭発表者あるいは責任発表者となったものを記載すること。
E. 地方的規模の学会・研究会	地方的規模の学会・研究会で、本人が口頭発表者あるいは責任発表者となったものを記載すること。
⑨ 学位	博士，修士のものについて記載すること。
⑩ 科学研究費等	
A. 文部科学省科学研究費等における研究代表者	文部科学省科学研究費等において研究代表者となった研究題目を記載すること。
B. その他研究に関すること	<p>文部科学省科学研究費研究分担者，委任経理金，受託研究，共同研究等のほか，上記①～⑥以外の執筆物（資料，年次報告，科学研究費研究成果報告書，各種研究助成報告書，書評，学界展望，海外論文紹介，シンポジウム提案，解説，辞典項目執筆等）を記載すること。</p> <p>○ A欄に記載した研究題目に対する成果報告書は記載しないこと。 ○ 被引用論文や被引用著書，推薦文の書かれた著書等について，3つ以内で記載することができる。ただし，学生や自分自身及び共著者が引用したものは除く。</p>
C. 文部科学省，県，市による研究協力校における主たる研究者	文部科学省，県，市による研究協力校において，主たる研究代表者となった研究題目を記載すること。
⑪ 学会賞	
A. 国際的規模の学会	左記項目に該当する学会賞について記載すること。
B. 全国的規模の学会	
C. 地方的規模の学会	
(欄外)	論文等発行予定のものを記載すること。

2. 教育業績

●対象の業績：公募締切日までの業績

項目	記載上の注意事項等
①大学等高等教育機関における教育経験	大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校（4学年～5学年担当）における教育経験について、専任、非常勤を問わず年度ごとに記載すること。
②研修センターまたはこれに準じる機関・施設での研修、講座等における教育経験	企業、病院、保育所その他の施設での研修・講座等の経験を記載すること。
③教科指導員等	教科指導員等としての経験を記載すること。

3. 社会的活動等

●対象の業績：公募締切日までの業績

評価項目	記載上の注意事項等
①国・県・市等における審議会・委員会の委員などの活動	審議会、委員会等での活動があれば、名称、役割、任期等を記載すること。
②作品展、コンテストなどの審査委員としての活動	作品展、コンテストなどの審査委員としての活動があれば、名称、役割、任期等を記載すること。
③学会、学術団体での活動	学会や学術団体等で務めた役員名（会長、理事、幹事、運営委員、企画委員等）と任期を記載すること。（所属する学会についてもこの欄に記載し、役員名は空白とし、在任期間欄に所属した最初の年月日を記載する。）また、それらの機関が発行する機関誌、雑誌等の編集・査読や特別の企画・運営（国際シンポジウム、特別検討委員会等）にそれぞれ携わったことがあればそれらについても具体的に記載すること。
④その他の社会的活動	その他社会的に活動したと思われる活動について記載すること。

4. 教育実践に対する表彰

●対象の業績：公募締切日までの業績

評価項目	記載上の注意事項等
①個人表彰	
A. 国際レベルの表彰	教育実践に対する個人表彰を受けたことがあれば該当の箇所（A.国際レベル，B.全国レベル，C.都道府県レベル，D.市町村レベル）に記載すること。
B. 全国レベルの表彰（文部科学省等）	
C. 都道府県レベルの表彰	
D. 市町村レベルの表彰	
②団体表彰	
A. 国際レベルの表彰	教育実践に対する個人表彰を受けたことがあれば該当の箇所（A.国際レベル，B.全国レベル，C.都道府県レベル，D.市町村レベル）に記載すること。
B. 全国レベルの表彰（文部科学省等）	
C. 都道府県レベルの表彰	
D. 市町村レベルの表彰	

5. 研究・教育・社会的活動等に関する今後の計画等

研究・教育・社会的活動等項目について、合計1,000字程度記載すること。

6. 当該教科・科目の担当者として学校教員養成に関わる考えや抱負

1,600字以内で記載すること。